



池田靖史

建築家／慶應大学SFC政策・メディア研究科教授  
設計実務と設計教育活動とともに、建築と情報技術の関係について早い時期から注目し、デザインへのコンピューター活用から、建築生産技術における革新、建築そのものの情報技術による進化まで研究の領域を拡大してきた。近年は情報社会における建築の新たな位置付けをめぐる動きを「建築情報学」と捉えて多様な分野に向けて連携を呼びかけている。

統合的な情報技術支援による組み立て作業のモデル実験 Timber Bonsai Workshop



みんなの森 ぎふメディアコスモス



金田充弘

構造エンジニア/東京藝術大学准教授  
カリフォルニア大学バークレー校修士課程修了後、Arup東京事務所や同ロンドン事務所に勤務。2007年より現職。構造設計作品としてメゾンエルメス（第12回松井源吾賞、第44回BCS賞）、米原幼稚園（アメリカンウッドデザインアワード）、砥用町林業センター（アーキテクチャーレビューアワード）、みんなの森ぎふメディアコスモスなど多数がある。

2019年度日本建築学会大会[北陸] 記念シンポジウム

## 次の時代の建築学に向けて 情報技術文明の視野と「建築情報学」の視点から

日時 9月5日(木)14:00～17:00 (13:30受付・開場)  
会場 金沢工業大学扇が丘キャンパス(6号館6・335室(多目的ホール))

既に情報技術は先進的でも先端的でもなく、我々の日常生活と社会活動の中に完全に組み込まれ、建築においても実務や研究の手法の域から、社会における「建築」自体の価値や役割への影響という域すらも超えて、工業化から情報化への産業構造の転換点を迎えた「情報技術文明」としての新しい文明文化論や倫理観が求められる段階に到達しているように思える。社会における技術の総合化手法として長い時間をかけて培われてきた建築学の体系を大きく見直すことは容易でないものの、このような急速な変化の中で、情報技術を共通項にした様々な領域横断活動が増加し、既存の建築学体系の枠に収まらない横断的な情報学的知見の持つ存在感が増していることも否めない。こうした気運をふまえて情報技術文明の中の建築的思考方法と、新しい社会との関係を「建築情報学」という新たな学問分野として捉える動きも数年前から始まっているが、その課題の大きさから、未だ明示的な体系化に至っていないとは言えない。本シンポジウムを通じ、情報技術文明を担っていく次世代が備えるべき学びのあり方について改めて問題提起したい。

主題解説 池田靖史 (建築家、慶應義塾大学教授)

話題提供 池田靖史 (建築家、慶應義塾大学教授)  
金田充弘 (構造エンジニア、東京藝術大学准教授)  
酒井康史 (MITメディアラボ・シティサイエンス、博士課程)  
杉原 聡 (コンピューテーショナルデザイナー、ATLV主宰)  
川島範久 (建築家・環境デザイン、東京工業大学助教)

討 議 池田靖史×金田充弘×酒井康史×杉原聡×川島範久  
モデレータ 池田靖史



©Carson Smut



酒井康史

1985年生まれ。日建設計/デジタルデザインラボを経て、現在MIT Media Lab 博士課程兼 リサーチアシスタント。人とテクノロジーの関係を探りつつ、なかでも”都市という機械”を対象に研究する。分散バージョン管理システムや新しい民主プロセスを参照し、建築 や都市における集団的な合意形成をサポートするシステムの開発に携わる。業績としてクーバー・ヒューイット美術館(米国NY州, 2018)やSiggraph(カナダ, 2018)など展示や、文化庁 メディア芸術祭審査員推薦作品(2014)やGolden Art Hack Award(2014)などの受賞がある。



エマーソン大学LA校 (設計:Morphosis Architects、中庭ファサード設計:杉原聡、撮影:渡辺太陽)



杉原聡

コンピューテーショナルデザイナー/ATLV代表  
東京工業大学計算科学修士修了及びUCLA建築修士修了の後、Morphosis Architectsにてコンピューテーショナルデザイナーとしてファサードデザインに従事し、2012年よりコンピューテーショナルデザイン事務所ATLVを設立。ミラノ万博中国館(2015)の屋根や、イスタンブール都市博物館(建設中)のファサードデザインを手掛ける傍ら、SCI-Arcでのセミナーやヨーロッパや中国でのワークショップにてコンピューテーショナルデザインの普及と教育にも勤む。



Photo by Chikashi Kasai

川島範久

建築家/東京工業大学 助教/川島範久建築設計事務所 主宰  
自然とのエコロジカルな関係性のデザインを通してデライトフルな建築を実現することをモットーに、コンピューター・環境シミュレーションを活用した環境配慮型建築のデザインプロセスの研究と実践を続けている。2007年東京大学大学院修士課程修了後、日建設計。2012年カリフォルニア大学バークレー校客員研究員。2016年東京大学大学院博士課程修了・博士(工学)取得。

